

桐が谷通信



CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第56号 2017年12月1日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

祝された100周年記念祭典 心の組曲「未来へのカンタータ ～ポローニアの丘の上で～」 片桐多恵子 (岐阜済美学院 学院長)

11月25日に長良川国際会議場で音楽を中心に繰り広げられた祭典は、ご来賓をはじめ聴衆の心を惹きつけ感動を呼びました。その一端をここでご紹介したいと思います。

【序章～学び舎の鐘～】は、大学関キャンパスのカリオン（片桐孝先生寄贈）が奏でる100鐘目で幕を開ける。パイプオルガンの音色が響き、舞台正面にはスタンドグラスが映し出される中で、済美高校聖歌隊が「ガリラヤの風^{かお}馨る丘で ひとびとに話された 恵みのみことばを 私にも聞かせて下さい」を歌い始める。清らかで澄んだ歌声が聴く人の心に染み込んでくる。讃美歌の清らかさを引き継ぐように、「主よ、人の望みの喜びよ」が吹奏楽（大学・短大・高校合同）によって格調高く美しく演奏される。

【第二章】では、片桐武司理事長が感謝の言葉と共に「学院は聖書の『神を畏れることは知識のはじめである』を建学の精神としている。教育・研究・社会貢献をさらに愚直に果たしていきたい」

と挨拶、そして本学院への厚意溢れる古田肇岐阜県知事の祝辞、カレーハウスCoCo壱番屋創業者宗次徳二氏による講演「オンリーワン人生」へと続く。



挨拶する片桐武司理事長

【第三章～輝きの現在（いま）】では、学生が学歌を、生徒が校歌を、園児が園歌を歌う間に、映像はそれぞれの歴史を映し出していく。両園の園児たちが共に「世界中の子どもたち」を歌い、ハンドベル部（短大・高校）が「Prayer」を静かに奏でる中で始まる【第四章～つながる】では、海外協定大学学長たちからの祝辞が次々と映像で届けられる。海を超えてつながるだけでなく、時を超えて卒業生達ともつながった。プロの音楽家としてご活躍の卒業生の方々のヴァイオリン演奏や独唱は、圧巻であった。

フィナーレは敢えて【未来への序章～ひとつづくり100年、未来へ】と題し、『祝典序曲』が110名の吹奏楽部員によって勇壮に演奏される間に、幼稚園から大学・卒業生総勢275名が登場し、「君が明日と呼ぶものを」を大合唱。私たちは、岐阜済美学院が一体となった100分の祭典に酔い痴れたのであった。



クリスマス・エッセイ

問いかけとしてのクリスマス

宗教総主事 高木 総平

11月に入ると、イルミネーションなどクリスマスを迎える雰囲気が街にあふれます。クリスマスというと、以前と違い、最近は家庭でのクリスマスが多くなったと言われています。いずれにせよ、キリスト抜きクリスマスであることには変わりありません。クリスマスの言葉の意味は、「キリストへの礼拝」ということです。かつて勤めていた中学高校の聖書の授業でそう伝えましたら、一人の生徒さんが、「うちの学校では毎日がクリスマスだ」と言いました。私は即座に「その通り」と応えました。かつてキリスト抜きのクリスマスはけしからんと説教でよく言ったことを覚えています。でも商業ベースの面があるとはいえ、世界の多くの人たちが温かい、うきうきした気持ちのさせられるのは、わずかでもクリスマスの精神があるからで、そんなにくじらを立てなくていいと思うようになりました。

その原点には、イエスがキリスト、救い主として、赤ちゃんの姿でこの世界に来られたことがあります。それも布にくるまれて飼い葉おけの中に寝かされていた、それがキリストとしてのしるし

だとルカの福音書には記されています。布はおむつ、おしめです。小さい弱い姿で救い主が来られたということなのです。マタイの福音書では、赤ちゃんのイエスと、当時のユダヤの最高権力者、ヘロデ王が対比されて描かれています。ルカの福音書では、ローマ帝国の皇帝アウグストゥスの勅令に動かされる若い夫婦のもとに生まれたと書かれています。どちらも強大な権力者とは正反対のそれも弱く小さな姿として、描かれています。そこからクリスマスが始まりました。

当時以上に今も多くの人たちは、強さ、豊かさを追い求めています。格差や戦争はそのような価値観が生み出すのです。救い主が小さい、弱い姿でこの世に降られたことは大きな問いかけです。改めてその意味を受け止めたいと思います。



「教会の暦と行事カット集」より

「ヨーロッパでのクリスマス」

清水 大輔(看護リハビリテーション学部)

私の最初の就職先は英国リバプール大学です。リバプールに限らず英国では12月半ばから約3週間のクリスマス休暇に入ります。休暇に入ると同僚たちはそそくさと地元へと帰っていきます。最初の年、休暇に入る直前にクリスマスはどうするのか同僚に聞かれたので、「夫婦でローマに行くよ、クリスマスはローマで過ごすんだ」と伝え、と、「ふーん、それは大変だね」と一言残して去ってしまいました。怪訝^{けげん}に思いながら私たちはローマに旅立ったのです。

到着してすぐは、遺跡や教会を巡って歩き、レストランでおいしい料理を食べ、いろいろなお店を巡り、と旅行を満喫しました。ところが、クリスマスが近づくにつれ、開いているお店が徐々に少なくなっていきます。そして、クリスマスの日

にはほぼどこも開いていないという状況になりました。それでもクリスマス・イブはいろいろな教会でクリスマス・イブの礼拝や催しがあり、お祭りのような楽しさがありました。

ヨーロッパの人にとってクリスマスは日本の(一昔前の)正月のようなもの



です。家族とともに教会に行き、家で食事をし、静かに聖なる日を過ごす日です。

「クリスマスの夜にパチカンのサンピエトロ広場で撮った写真です。

サンピエトロ寺院の前に大きなクリスマス飾りがあります。キリスト誕生を表したクリスマス飾りにはクリスマス・イブまではキリストの像がありませんが、クリスマス当日にキリスト像が設置されます。」

桐が谷通信

家族とともに教会に行き、家で食事をし、静かに聖なる日を過ごす日です。だから、当然店はどこも開いていません。同僚の「大変だね」の意味がよくわかりました。因みにクリスマスの夜は

バチカンのサン・ピエトロ広場で礼拝に参加し、第264代ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世の講話を聞いてきました。

特別講義 インドにおける身分差別 ～カリさんの取り組み～

本学では毎年、愛知県日進市にある「アジア保健研修所 (AHI)」から講師を派遣していただき、チャペルでお話しいただいたり、特別講義を行っていただいたりしています。その中でも、短期大学部社会福祉学科(介護福祉コース)では、2009年度から1、2年生合同ゼミナールとして、特別講義「アジアの保健・福祉を学ぶ」を行ってきました。今年度は、11月23日(木)に、南インド・タミルナドゥ州でダリットのエンパワメントに取り組む、ムルガン・カリラトナム先生(NGO「貧困者のための奉仕協会」代表)をお招きしてお話しをうかがいました。(「ダリット」とはインドのマラティ語で「砕かれた者」「抑圧された者」の意味です。)

先生は、ダリットのほか、女性、少数民族、障がい者など弱い立場に置かれた人たちをエンパワメントし、必要な行政サービスにアクセスできるよう支援を行っておられます。たとえば、土地を持たないダリットを組織し、誰もが本来持っている権利について知らせ、不条理な差別に対する意

識を喚起し、多くのリーダーを育てて来られました。また、地主に頼らず収入を得ることができるよう、共同の耕作地を用意し、農業を行うようにされました。さらには、ダリットの生活向上のために地方議会や州議会に働きかけを行って来られました。

通訳と解説は、インドでの経験が豊富なAHI職員の中島隆宏先生でした。



「2017年度中部学院大学・中部学院大学短期大学部クリスマス献金」

Pray for the World !!

今年も主イエス・キリストのご降誕をお祝いするクリスマスの季節がやってきました。クリスマスは、主イエス・キリストがご自身のすべてを人々の幸せのためにささげつくしたことから、私たち自身の一部を少しでも人々の幸せのためにささげ合うことを実践する季節です。今年の献金は、東北と九州の被災地を継続して、またアジア諸国の内戦、災害の被災地を覚えたいと思います。ぜひとも、思いを込めてご献金ください。よろしく願いいたします。

募集期間 : 2017年11月27日(月)～12月26日(火)

献金予定先 : 東北と九州の被災地を覚えて: 日本キリスト教団東北教区センター、同九州教区
近隣の施設を覚えて: 岐阜いのちの電話、野宿生活支援の会、(福)あゆみの家ほか
海外の被災地等を覚えて: シリア難民、メキシコの被災地、ミンダナオ子ども図書館など
関キャンパス総務課カウンター・各務原キャンパス事務室に設置していますクリスマス献金箱に献金ください。ご協力をよろしく願いいたします。

2017年度 クリスマス礼拝

「飼い葉桶の乳飲み子、イエス・キリスト」

沖縄キリスト教学院大学 教授 金 永 秀 先生

日時：12月21日(木) 11:00~12:15
(第2時限の講義は行いません。)

会場：関キャンパス グレースホール

<講演内容>

クリスマスは、ロマンティックな季節です。又、楽しい時です。しかし、聖書には本来のクリスマスがそのような華やかさとはかけ離れたものであることが記されています。それは、政治に翻弄される中で生まれた一人の名も無い貧しい家に生まれた赤児の誕生の物語です。イエス・キリストは、ローマ帝国によって支配されていたパレスチナの地で生まれました。

聖書のクリスマス物語を読んでいて気づくことは多いのですが、全体的に、そして、基本的に不思議なことに気づきます。この物語にはその多くが貧しい人、あるいは問題を抱えている人ということです。物語の背景のなかには、ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥス、オクタヴィアヌスやユダヤ地方政府の王ヘロデの名前は出てくるのですが(マタイによる福音書)、彼らはこの物語の脇役でしかありません。ヘロデは、むしろキリストを亡き者にしようとして虐殺を命じた悪役です。

そして、主人公は乳飲み子として産まれた小さなイエスなのです。この子は飼い葉桶(家畜のエサの入れ物)に敷いた干し草(エサ)の上に寝かされました。そして、羊や馬や牛がその周囲を取り囲みます。クリスマスのページェントなどで描かれるロマンティックな物語の内容は、よく考えてみるならば、それは驚くべき貧しさの中で、愛する子供の寝場所も用意することの出来ない両親の元に産まれた子供の物語であることに気づくのです。父ヨセフは、下層階級に属する大工でした。

小さく貧しい存在でなければ見ることの出来ない本当に大切な真実が多くあります。一般社会で私達が目指すのは、大きく立派な存在になることです。しかし、聖書のクリスマス物語は、2000年も以前から大きく立派な者達には見ることの出来ない真実がイエス・キリストによって見つめられていることを知らせます。そして、私たちにその小さな存在の貴さを示すのです。クリスマスには、そのような異なる意味と価値があることを心に思っ歩いてみたいものです。



桐ヶ丘幼稚園のお友だちがクリスマスキャロルをしてくれます!



<講師プロフィール>

金 永秀 (Kim Youngsoo) 1957年、在日コリアン二世として西宮で生れる。韓国の総神大学院、米国のサンフランシスコ神学大学院(牧会神学博士)卒。在日大韓キリスト教会所属牧師。同教会では、京都南部教会、豊橋教会を担任。留学先の韓国では勝洞教会等で教育担当伝道師、カリフォルニアでは日系アルザスゲート教会で日本語礼拝担任牧師。豊橋では、教会横に建設された特別養護老人ホーム永生苑豊橋で施設長を兼務しました。現在は、沖縄キリスト教学院大学の教員です。